

ヨハネの福音書 第3章 16節

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

季節の変わり目は急ぎ足。灼熱の季節が終わったかと思った途端、寒々とした秋雨が数日続いている。暑い風から涼しさを一挙に越えて寒い空気が吹き抜ける通りである。この風が列島を覆う。

それを超える風が場所を問わず、時代を問わず吹いている。神がひとり子を世に贈ってくださった愛の風が吹いている。世を愛し、世にある者だれひとりをも失いたくない風、信じる者を救い上げたい風である。

すべてに吹きつける風である。暑くもなく、寒くもなく、愛の風、救いの風である。ただ、この風は皆感じ取る季節風とは異なり、御子を信じる者が受ける風である。信じる者が、ひとりとして滅びることのない、そして、永遠のいのちにあずかることが許される風である。

流れる空気に、暑さ寒さそして清々しさを感じるのは、風のなかに立つ者すべてに届く。しかし、愛の風、救いの風は御子を信じる者にしか届かない。だから愛の風は止むことなく吹き続ける。

2023年10月9日